

# 岸田てつはる 区政報告

発行所：自民党大田区民連合  
(政務調査係)

住所：大田区蒲田5-13-14

電話：03-5744-1480



自民党大田区民連合  
岸田 てつはる 議員

2008年から一般財団法人 森記念財団・都市戦略研究所が毎年発表している「世界の都市総合ランキング」の最新版(2016年10月発表)によると、「経済」「研究開発」「文化・交流」「居住」「環境」「交通・アクセス」の6つの分野を世界の主要42都市を総合評価した結果、初めて東京がパリを抜いて、ロンドン・ニューヨークに次いで3位にランクインしました。訪日外国人の増加により「文化・交流」の面での評価が高まったことが要因のひとつでした。4位以下はパリ・シンガポール・ソウル・香港・アムステルダム…と続きます。

このように東京が世界に向けての強い発信力の一端を担う羽田空港では、新滑走路を造成するための沖合展開事業により出来た約54ヘクタールの空港跡地を3つのゾーンに分割し、それぞれの構想に沿って整備する跡地利用についての動きが本格化してきました。

また、JR東海が2027年に東京(品川駅)〜名古屋間の先行開業を目指しているリニア中央新幹線の工事も本格化してきました。大田区もそのルートの一部になっており、東雪谷1丁目に付帯設備である非常口が建設されることになっています。今年5月より、その用地にある建物の解体工事が始まっています。

今回の区政報告では、これらについて報告いたします。

## 大田区が担当する 羽田空港跡地の第一ゾーン整備について

羽田空港では、1984～2000年までに実施された東京湾を埋め立てて新滑走路を造成する沖合展開事業が終了の後、2010年10月より空港再拡張事業による4本目の滑走路及び国際線地区の供用が開始されました。これにより利便性が大幅に向上し空港の発着便数や利用者数も増加傾向にあり、「24時間国際拠点空港化」は順調に推移しています。



この沖合展開事業完了により使われなくなった滑走路や駐機場のあった広大なスペースが残されており、一部には新しい国際線ターミナルが建設され、残りの約54ヘクタールの跡地利用について長く議論されてきました。

2008年3月には、国土交通省・東京都・大田区・品川区で構成された羽田空港移転問題協議会において「羽田空港跡地利用基本計画」が策定され、跡地を3つのゾーンに区分し、それぞれの構想に基づいて整備することになりました。第1ゾーン(市街地近接ゾーン)には文化・交流機能・産業支援機能、第2ゾーン(国際線地区隣接ゾーン)には国際交流機能・商業機能、第3ゾーン(B滑走路近接ゾーン)には空港連携機能というものです。

大田区は、3つのゾーンのうち第1ゾーンの整備を担当することになっており、跡地の相応しい街づくりの早期実現に向けて、土地利用の具体化・基盤整備のあり方・街づくりの進め方を検討してきました。そして、今年6月に大手ゼネコンの鹿島建設を中心にトヨタ自動車など29の事業者が参加した第一期事業整備運営予定者が決定し、中核となる産業・文化施設の計画概要を公表しました。

計画では、2020年の東京オリンピック・パラリンピック前までに一部先行オープン、2022年に全面オープンに向けて、「新産業創造・発信拠点」を目標にして整備していきます。

具体的には、町工場が集中する大田区の特徴を活かし、自動運転車や医療・ロボット開発などの先端産業を集積し技術開発の拠点としての利用、演劇を楽しむイベントホールや日本の伝統工芸・食文化を体験出来る商業施設の他、観光情報の発信拠点となっています。

なお、第2ゾーンでは住友不動産などの主導でエアポートホテルが整備され、第3ゾーンでは国土交通省により駐機場の拡充が検討されています。

## 東雪谷1丁目で始まった リニア中央新幹線の非常口建設工事について

2014年12月末に着工されたリニア中央新幹線(以下:リニア)の工事が各地で本格化してきました。

大田区内もリニアのルートになっており、品川駅を出発し品川区内を通り大田区内に入り、長原駅付近～洗足池駅付近～田園調布駅付近から多摩川を渡り

神奈川県へ入り、名古屋へ向けて西進していくものとなっています。

リニアについて簡単に説明しますと、JR東海が建設する時速500Km/h以上で走行可能な超伝導リニア方式を採用した高速鉄道で、東京(品川駅)～名古屋間290km弱を最速40分、更に東京～大阪間(新大阪)は最速67分で走破する事ができます。2027年に東京～名古屋間が先行開業し、その後最短で2037年に東京～大阪間が開業する予定となっています。現在ルートが決定している東京～名古屋間では約86%が地下トンネルとなり、都内に限って言えば、全てのルートで地下トンネルを走ることとなります。このため約5Km毎に避難用階段・エレベーター・換気設備が設置された非常口が必要となってきます。

大田区内では洗足池近くの中原街道沿いの東雪谷1丁目に非常口が建設されることになっています。この建設用地には警視庁の家族寮がありましたが今年の5月より解体工事が始まっており、年内には全て終了する予定となっています。その後、非常口の本体工事が始まることとなります。

一般的に解体・建設工事には、廃ガラ・廃土の排出や粉塵の問題等が発生する場合がありますので、わたし達は今後も注意深く工事の進捗を見守りつつ、近隣の住民の皆さんが安全で安心して暮らせる環境が保てるよう業者に働きかけていきたいと考えています。また、当該地域に実際に住まわれていないと分からないような問題等がありましたら遠慮なさらずに自民党大田区民連合(TEL:03-5744-1480)までお知らせください。

## 大正～昭和期に現大田区に居を構え活動した 版画家『川瀬巴水』について

川瀬巴水(かわせはすい)という大正から昭和中期まで活動した版画家をご存じでしょうか?

巴水は、版画家人生のほとんどを現大田区に居を構え活動しました。そのため大田区内の名所や風景などを題材とした作品も多数あります。右側に掲載した作品は後期の作品のひとつで洗足池を描いた「洗足池乃残雪」というものです。(オリジナルはカラー)



評価は国内よりもむしろ海外で高く、アップルコンピュータのCEOであった故スティーブ・ジョブズもコレクターのひとりだったと言われていました。

その作風は「新版画」と呼ばれ、明治期に廃れていた浮世絵の画家・彫師・摺師の三者による伝統的技法を用いて新風を求めた版画となっています。巴水は風景を題材にしたものが多く、日本各地を旅して色彩豊かな作品を残しました。

作品群を見ていると、戦前から戦後にかけての日本の懐かしい風景が蘇ってくるような感覚を覚えます。ご興味がありましたら図書館等で調べてみてください。

区議会へ区民の皆さんの声を届けます。

皆様のご意見やご要望をお待ちしております。

自民党大田区民連合 TEL:03-5744-1480